

1. 近年既製服の進出進歩はめざましい。とくに女児服においてはその需要が目立っている。母親は、既製服に対して何を求めているか。また現在販売されている既製服の実態はどうであろうか。さらに日常生活の中で実際に着用されている女児服は、どんなものであろうかということを知るために、本調査をおこなった。

2. 調査は、広島市内におよびその周辺の2歳から10歳までの女児をもつ主婦および市の中心部を歩いている女児のおのおの400名を対象とした。調査の内容は、夏のドレスを主とし、その長所短所、販売されている女児服の購入方法および今後への要望などについて調べてみた。

3. その結果、現在販売されている女児既製服は年々改良されつつあり、美しくデザインされしかも気やすく求められるが、仕立て方に少々難があり、スナップやボタンつけがよくないといわれたり、全体に縫い代を多くとってほしいとの要望がある。特にサイズの統一は、強くさげばれている。あきの位置についても、需要者は前あきを絶対多数希望しているのに、実態では後あきが非常に多い。このように母親の求めている女児服と既製の女児服との間には、まだ相当の開きがあることを知ることができた。今後の問題としては既製服を製作するにあたって、需要者の希望をじゅうぶん調査し、その改善にいっそうの努力が望ましい。